

学科名	電気通信工学科						
科目名	電気工学基礎実験Ⅱ						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	2年後期		
必修・選択の別	必修科目(組込みシステムコース) / 必修科目(電気エネルギーコース) / 必修科目(情報システムコース)						
担当者	原谷 直実、江崎 秀、鳥越 敏裕、李 旻哲						
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流計器の取り扱いと計器を用いた交流電気磁気測定法を習得する。(A2,A6,B1,B2)</li> <li>・線形受動素子を含む交流回路の周波数特性を理解する。(A6,A7,B3)</li> <li>・ダイオード(非線形受動素子)を含む回路の性質と応用について理解する。(A7,B3)</li> <li>・回路素子(抵抗器、インダクタ、キャパシタ)の性質と役割を理解し、過渡現象について学ぶ。(A6,A7)</li> <li>・機器や文献の調査研究、技術レポート作成手法を学ぶ。(A4,A10,B2,C1,C5)</li> </ul>						
日程と内容	<p>第1回：ガイダンス：授業の進め方と概要、実験実施日程、成績評価法等、授業に関する説明  実験テーマ：(1) 交流回路の測定、(2) 交流磁界の発生と測定、(3) ダイオードによる整流回路、(4) 過渡現象、を第2回から第9回まで実験実施日程表に基づいて行う。これらの実験が終了した者のみ、応用実験に着手することができる。</p> <p>第2回：実験第1回  第3回：レポート第1回  第4回：実験第2回  第5回：レポート第2回  第6回：実験第3回  第7回：レポート第3回  第8回：実験第4回  第9回：レポート第4回  第10回：応用実験①(回路を読む)  第11回：応用実験①(回路を読む)  第12回：応用実験②(回路を組む)  第13回：応用実験②(回路を組む)、授業実施実績確認、授業評価  第14回：実験予備日、応用実験②(回路を組む)、授業実施実績確認  第15回：実験予備日、応用実験②(回路を組む)、授業実施実績確認</p>						
成績評価基準	定期試験			実技	60%		
	臨時試験			部外評価			
	報告書・レポート	40%		プレゼンテーション			
	課題 演習			計	100%		
授業到達目標の達成度	基本実験4テーマの実験を実施し、レポートを受理された者が成績評価の対象となるので、合格した学生は授業の到達目標をすべてクリアしている。						
反省点	不合格者は最初から欠席(定期試験受験者数に算入しない)しているか履修の中途放棄者である。レポートが遅延する学生は、どのテーマについても遅延する傾向があり、それが履修放棄に繋がる例もある。実験は行いが、レポート作成が苦手で不合格となる学生がいるが、レポート作成指導に十分時間をかけられないのは学生に申し訳なく思う。						
来年度の計画	「応用実験」については、前期「電気工学基礎実験Ⅰ」の応用実験と併せてモデルチェンジを考えたい。						
授業評価アンケートに対するコメント	1年次の実験に比べるとレポート作成に時間がかかるテーマが多いのだが、予習・復習(自宅学習)(3.8)に時間をもっと費やしてほしいと思う。1年次ではレポート作成にあまり苦労していないようだし、3年次生は時間外学習でレポート作成の努力を多くの学生がしているように感じる。2年次の実験はこれらの過渡期か。						
履修登録者数	55名	定期試験 受験者数	51名	合格者数	49名	合格率	96%